

人間社会が生み出す廃棄物は、量の増大、有害性と環境制約に対する認識の増加、資源の有限性に対する危機感のため、従来型の処理の継続が困難になっている。将来世代に負の遺産を残さないという持続可能性が、国を問わず、21世紀の共通課題である。本シンポジウムは、持続可能な廃棄物処理のための戦略と課題について講演、討論する。

国際シンポジウム

持続可能な廃棄物処理のための戦略

2006.8.8 tue. 13:30-17:30

@ ホテルロイトン札幌 (中央区北1西11)

参加料無料

使用言語：英語（同時通訳つき）

program

- 13:30 開会挨拶
松藤敏彦（北海道大学）
- 13:40 都市圏における物質代謝と
持続可能な廃棄物処理戦略」
Prof. Paul H. Brunner
(ウィーン工科大学, オーストリア)
- 14:40 持続可能な廃棄物埋立とは
何か, どう達成するか」
Dr. Luis F. Diaz
(CalRecovery Inc., USA)
- 15:40 コーヒーブレイク
- 16:00 「韓国におけるリサイクル
総合戦略」
Prof. Lee Dong-Hoon
(ソウル市立大学, 韓国)
- 17:00 総合討論
- 17:30 閉会

講演者紹介 ...

- Brunner 教授は、人類圏における物質代謝に関する研究者として著名であり、環境影響、資源保全の観点における廃棄物処理の目標設定のあり方、優先順位設定、評価方法を含めた戦略について講演する。また、有害物質のクリーンサイクル（環境にやさしい循環）、持続可能な製品づくりにも触れる。
- Dr. Luis は、廃棄物関係で最も権威ある論文誌 Waste Management のチーフエディターであり、資源化、途上国の廃棄物問題に造詣が深い。シンポジウムでは、持続可能な埋立とは、どのようなものと考えられているのか、その実現のためにどのような方策がとりうるのかについて講演する。
- 李東勲教授は、ソウル市立大学においてバイオマスリサイクル研究センター長、産官共同基金の責任者を務めている。韓国では総合的なリサイクル戦略を立て、わが国に較べて高いリサイクル率を達成している。シンポジウムではその紹介と、データ整備の必要性などの課題について講演する。

参加申し込み・問い合わせ

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目
北海道大学大学院工学研究科資源循環システム専攻 松藤敏彦・山田以茜（秘書）
tel/fax (011)706-6827 E-mail : isen@eng.hokudai.ac.jp

※資料準備のため、事前の申し込みをお願いいたします。またシンポジウム終了後、講演者との交流を目的とした懇親会を行います（会費 3000 円を予定）。懇親会の参加の有無も合わせてお知らせください。